

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

株式会社サクセスアカデミー

にじいろ保育園藤沢

藤沢市藤沢 989-4

【評価対象種別】

保育所

【使用評価項目】

横浜市版

●実施概要	P1
●総合評価	P2 ~P3
●分類別評価結果	P4 ~P15
●利用者家族アンケート結果	P16~P24
●利用者本人調査結果	P25~P26

2017年1月

評価実施機関：合同会社 評価市民・ネクスト



【評価実施概要】

事業所名	株式会社サクセスアカデミー にじいろ保育園藤沢
事業所への報告書提出日	2017年1月30日（評価に要した期間）9か月
評価機関	合同会社 評価市民・ネクスト

●評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2016年6月9日～8月26日</p>	<p>①第三者評価の主旨を会議で確認し、園内研修で保育内容の勉強会を行った後、各人で記入した。</p> <p>②個人が記入したものを、グループに分かれ主に保育内容について話し合った。 その他の領域は、個人が記入したものをクラスリーダーが1項目ずつ協議しまとめた。</p> <p>③園長が自己評価最終版にまとめ、全職員に周知し合意を得た。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2016年7月26日～8月9日</p>	<p>① 全園児の保護者（69世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日 第1日：2016年9月26日 第2日：2016年9月27日</p>	<p>[第1日] 午前：保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：書類調査。園長・主任・運営法人保育アドバイザーにヒアリング。</p> <p>[第2日] 午前：朝は登園の様子を観察。その後各クラスで保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員2名、主任に順にヒアリング。 その後、園長・主任・運営法人保育アドバイザーにヒアリング。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日 第1日：2016年9月26日 第2日：2016年9月27日</p>	<p>① 観察調査を調査員が各クラスで実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

【施設の概要】

にじいろ保育園藤沢は JR 東海道線、小田急江ノ島線、「藤沢」駅北口から歩いて 5 分ほどの場所にあり、幹線道路より少し入った場所にあり、周囲は大型のマンション、民家が混在する住宅地となっています。園舎は屋上を遊び場スペースとして使用することのできる、鉄筋コンクリート二階建ての構造となっており、園舎内は日当たりがよく広々としています。定員は 80 名(0 歳児～5 歳児)、開園時間は平日：7 時～20 時、土曜日：7 時～18 時です。

保育理念は「のびやかに育て だいちの芽」、保育目標は「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」です。

にじいろ保育園藤沢は 2013 年(平成 25 年)11 月に株式会社サクセスアカデミーによって設立されました。運営法人は保育園・学童クラブ・児童館の運営、病院・事業所・大学内の保育委託サービス、保育施設運営のコンサルティングサービスなど、首都圏を中心に幅広く展開しています。

●特長・優れている点

【1】子どもたちは、自分の言葉で自分を素直に表し、園生活を楽しんでいます

保育士は、子どもたちを優しく見守り、子どもたちが自分を素直に表現できるような支援を行っています。

乳児クラスの子供たちは、小さなことでも「できたね」「じゃあなくなったね」など、昨日まで出来なかったことが、今日は出来るようになった事を保育士から褒めてもらい、自信を付けていきます。また、気持ちの行き違いで小さなトラブルが起こった時にはそれぞれの話をよく聞き、危険な時には、保育士は子どもに「いけない」と、しっかり言い聞かせています。見ていた本を黙って取りあげられた子どもには「返してって言いに行こう」と、友だちと向き合わせ「返して」の言葉が言えるように声掛けをしています。同時に相手の子供へは「ごめんね」が言えるような声掛けをし、子供同士のルールが学べるようにしています。

幼児クラスでも、子供の行動や発言を優しく受け止めて気持ちを引き出せるような声掛けをし、子供が自分の気持ちを素直に表現できるよう働きかけています。子供同士でトラブルの解決が難しい場合にもすぐに否定したり叱ったりするのではなく、分かりやすい言葉で理由を説明し子供が納得できるようにしています。「そうだったの。嫌だったのね。じゃあ、〇〇くんに伝えてみようか」など、子供たちは保育士に自分の気持ちを受容してもらうことにより、安心して自分を素直に表し、元気いっぱい園内で過ごしています。

【2】子ども中心の保育の実践を目指し、職員は連携して保育にあたっています

園全体で、子供、保護者に対して同じ対応ができるようにするため、職員間で日々のコミュニケーションをこまめに取り、きめ細やかに情報を共有しています。園長、主任は毎朝、給食数の確認を行うため、各クラスを回る時には、その日の朝の保護者、子供たちの様子を聞いています。気になる情報や気づきは、直ちに他の職員にも伝えられ、クラス担当以外の職員からも該当する子供や保護者への声掛けが行われています。

子どもの状況やクラスの課題などはクラスミーティングで話し合い、月案、週案等につなげています。保育士間の風通しはよく、お互いの気づきを提案しあい、園長、主任を含め、分からないことを気楽に聞くことができる雰囲気があります。子どもとの関わりで気になったこと、困ったこと、保護者との関わり方などをすぐに相談し合うことができます。話し合われた内容は、職員会議、カリキュラム会議などでも再度話し合われています。

職員全員で一人一人の子どもの様子を共有するとともに、現場ではどのようにしたら良いか、自分たちの保育が方針に沿っているかを振り返っています。職員間の信頼、上司への信頼が厚く、お互いに連携して助け合う事ができるようになっています。

【3】 職員の自主性を引き出すための取り組みが行われています

園では、職員が保育に対して同じ方向性を持ち、自ら考えて実践する保育ができるよう、職員の育成計画を立てたり、普段の保育の中で、保育士同士が気楽に相談したり、疑問点を話し合ったりできる環境づくりを行っています。職員の育成用に作成されている「チャレンジ共有シート」を基に行われる年2回の園長との面談では目標達成度の確認を行っています。それを基に職員は、目標の再検討を行ったり、研修に参加したり、園長、主任からアドバイスを受けたりしています。また、クラスミーティング、カリキュラム会議、職員会議などすべての会議に園長、主任が出席し、個々の保育士の日々の保育内容、問題と感じている点、自分の保育への思いなどを聞くようにして、職員の意見や提案を吸い上げ、職員が主体的に責任をもって保育にあたるよう後押ししています。災害時避難用の靴の一括購入、アレルギー児への対応方法など職員の発案で改善したり、実施したこともあります。職員の自主性を引き出す事で、次世代の幹部職員を作り出すことができるような取組を行っています。

●今後の取り組みが期待される点

自然に触れることのできる、戸外遊びへのさらなる取り組みが期待されます。

園周辺に散歩に適した場所が少ないと捉えており、散歩に出る機会が比較的少ない状況です。保護者アンケートにおいても自然に触れる戸外遊びの少なさについてコメントが見られました。自然に触れることのできる戸外遊びと戸外遊びに代わる工夫への取組みが期待されます。

地域との交流を行い、園の専門性を活かした地域支援を行うことが期待されます。

園は、園庭開放、絵本の貸し出し、交流保育等を通して地域への働きかけを行っていますが、周囲にビジネス街を有する地域での開園3年目という事もあり、地域の団体・機関と定期的・計画的に交流を図るには至っていません。地域の子育て支援に関する活動団体や関係機関との定期的な検討会等を行うなど、地域との交流を行い、地域の実情や子育て支援ニーズを把握して、園の持つ保育の専門性を地域に向けて活かす取組みを行うことが期待されます。

分類別評価結果




「ひょう太」 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


横浜市の評価基準に基づいて、各評価分類は1～6つの評価項目によって構成され、評価項目の評価結果によって、評価分類の評価結果が決まります。


評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> <p>(1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2) 保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 保育理念は「のびやかに育てだいちの芽」、保育方針は「みとめ愛 みつめ愛 ひびき愛（信頼 安定 共感）」、「陽だまりのような保育園」、「地域と共に育つ保育園」、「子どもと共に輝いていける保育園」、保育目標は「自分を愛し、心身共に健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」、「自己を表現できる子ども」で、利用者本人を尊重したものとなっています。保育士は基本方針に沿って、子どもの状況を確認しながら職員全員でサービスの実施を行っています。 • 保育課程は、年度末の職員会議で話し合い、年度始めに作成しています。保育課程にはこども理念、保育方針、目標を明記するとともに地域交流、保護者支援など地域の実態、周囲の環境を考慮し、子どもの発達過程に沿って作成しています。保護者に対しては、入園説明会や懇談会で保育課程の説明を行うとともに、玄関の掲示板にもファイルに入れて、保護者がいつでも確認できるようにしています。 • 保育課程に基づき、年齢別に年間指導計画、月案、週案を作成しています。言語化できない子どもに対しては、身振り、手振り、表情などから子どもの気持ちをくみ取るようにしています。言語化できる子どもからは、子どもの意見・要望を、保育士が先回りしないよう丁寧に聞き取るようにしています。就学に向けて自分の言葉で言えるようにすることを目標にし、子どもの状態、状況を把握しつつ日案、週案の振り返りを行い、次の指導計画を作成するよう柔軟に対応しています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> <p>(1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2) 新入園児受け入れ時の配慮を+</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 入園前に各家庭に郵送した家庭調査票を基に生育歴や家庭での子どもの様子を把握するようにして、入園前面接に臨んでいます。面接には園長、主任が対応していますが、必要に応じて看護師、栄養士が参加することもあります。把握した情報や書類は子ども一人一人のファイルを作成し、

<p>分しているか。</p> <p>(3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<p>職員がいつでも閲覧できるようになっています。保育者によって対応にふれがないようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新入園児に対して個別の主担当保育者を決めており、子どもが不安にならないよう配慮しています。また入園当初は職員配置を厚くしています。 • 指導計画はクラス担当の職員全員で子ども一人一人の様子を話し合った内容を基に作成されています。それらを基に振り返りを行い主任とクラス担任とで次月の月案作成を行っています。
--	---

<p>I-3 快適な施設環境の確保 </p>	
<p>(1) 子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。</p> <p>(2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。</p> <p>(3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • マニュアルに基づいて清掃が行われ、チェック表を用いて管理が行われています。園の内外とも清潔に保たれています。空気清浄器・温度計・湿度計・エアコンが各保育室にあり、室内の温・湿度の管理を行っています。各保育室の窓は園庭に向けて大きく取っており、陽光を十分取り入れることができるようになっています。 • 0歳児保育室には沐浴室、乳児トイレ、幼児トイレに温水シャワーの設備があります。沐浴室・温水シャワーの設備はマニュアルに沿って毎日清掃が行われています。 • 保育室内をロッカーの配置により空間を仕切り、畳やジョイントマット、台などを用いて子どもが小集団で遊べるよう工夫しています。 • 保育室のパーティションを外すことにより大きな部屋ができ、異年齢交流の場とすることができます。日常生活においては、広い廊下が交流の場となっています。夏祭り、運動会では縦割りグループで活動するなど、日常的に異年齢の交流を行っています。

<p>I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力 </p>	
<p>(1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 0・1・2歳児は個別指導計画を作成しています。幼児についても特別な課題があったり配慮が必要な場合には個別指導計画を作成しています。各クラスミーティングを基に一人一人の子どもの発達状態を確認し、目標、計画の見直しをしています。 • 一人一人の保育所児童保育要録を作成し小学校に送付しています。入園時に子どもや家庭の個別状況・要望を保護者に児童調査票に記入してもらっています。入園後の子どもの成長発達の記録は児童票、児童発達経過記録に記録しています。これらの記録は事務所内の鍵のかかる棚に保管されており、必要な職員はいつでも見ることができます。

<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み </p>	
<p>(1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 配慮を要する子どもを受け入れています。発達に課題のある子どもの日々の状況やなど個別のケースについて職員会議、クラス会議、ミーティングなどで話し合い、職員間で共有しています。「気になる子への配慮」など外部研修に参加した職員は、園内研修や職員会議において、報告、発表し共有しています。


<p>(3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。</p> <p>(4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 園にはエレベーターが備えられ、園内はバリアフリー構造になっています。車いす対応のトイレもあります。 • 月1回運営法人の契約する臨床心理士の巡回があり、保育の助言を得ています。保護者の同意を得て藤沢市子ども家庭課や嘱託医などから助言が得られる仕組みがあります。保育士は障がい児と他の子どもとの関わりを配慮しています。差別を受ける事が無いよう、子どもの気持ちを押し量り、代弁したり、言葉を足したりして、できるだけ他児と同じ活動、経験ができるように支援しています。 • 虐待マニュアルがあり、それに沿って研修を行っています。虐待を確任または疑わしい場合には園長が藤沢市子ども家庭課に相談し連携を取る事になっています。保育士は送迎時や、保育時間中に保護者や子どもに気になることが有った場合、さりげなく声掛けし、保護者が気軽に相談できる雰囲気作りをして虐待の予防に努めています。 • アレルギー疾患がある場合は主治医の記入した食物除去の指示書を基に除去食を提供しています。提供するに当たり、園長、看護師、栄養士で対応方法を決定し、除去食対応シートを作成、保護者に説明し同意を得ると同時に、個々に対応した献立表（除去献立をマーカーで色付けしたもの）を事前に渡し、内容をチェックし確認印をもらっています。除去食を提供する時には、個別のテーブル、名前の付いた専用トレイ、食器を使用しています。使用する布きんも色を変え、他の子どもに使用する布きんと混ざらないようにしています。専用トレイを受け取る時には、担任または園長、主任が受取り除去内容を「声だし確認」して誤食事故を防止しています。 • 外国籍など文化の異なる子どもに対しては、文化や生活習慣、違いを図書館などから本を借りてきて視覚的に訴え、子どもたちが異文化を理解できるようにしています。
--	--

I-6 苦情解決体制



<p>(1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。</p> <p>(2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長が担当しています。入園のしおりに明記するとともに玄関に掲示しています。入園説明会でも説明しています。 • 第三者委員を定め、連絡先を入園のしおりに明記するとともに玄関に掲示しています。懇談会や個人面談で保護者の要望や苦情を聞いたり、運営委員会の前、試食会や運動会などの行事の後、アンケートを実施し保護者の要望や苦情の把握に努めています。 • 要望や苦情を受け付け対応するための「苦情解決マニュアル」が整備されています。要望や苦情があった場合、臨時の職員会議を開き、原因や対応、を検討しています。
--	--

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕</p> <p>(1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃは棚や籠に写真を貼り、わかりやすく分類して収納しています。子どもが自分で取り出し、遊んだ後も自分たちで片付けやすくするための工夫です。 ・おもちゃは、収納してあるものも含め確認作業を年に2回行っています。また、春と秋を目安に子どもの発育を考慮したおもちゃの見直しをしています。絵本については季節感のある本選びを小まめに行っています。 ・朝夕の自由遊びの時間や園庭遊びの時間には、子どもたちが数人でブロック遊びやパズルに熱中する姿や、鬼ごっこやかけっこを楽しむ姿、ままごと遊びを楽しむ姿、一人で落ち着いて絵本を読む姿等が見られ、それぞれが気に入った遊びを見つけて過ごしています。 ・保育士は、自由遊びの時間に一人にいる子どもには友だちへの声かけを援助したり、遊びに飽きた子どもには興味を持てる遊びを提示したりしています。クラス全体に目配りし全員が興味をもって遊び込んでいけるように配慮しています。 ・植物の栽培については、園庭のプランターで、ピーマン・ナス・ゴーヤ・朝顔等を育てています。子どもたちは水やりなどの世話を通して植物の成長を理解し、野菜の収穫からは、自分の育てた野菜を食べる体験から苦手な食べ物の克服につながることも多くあります。また、ゴーヤ・朝顔のようなつる性植物の栽培ではグリーンカーテンの意味を学んでいます。また、動物については、カタツムリやオタマジャクシを飼育しています。子どもたちはオタマジャクシがカエルになる過程を観察し、カエルをどうすればいいかを、子どもたちで話し合い、自然に戻す結論を出すまでの体験をしています。 ・子どもの表現力を培うために、専門講師による月に2回の造形教室(3.4.5歳児クラス対象)を設けています。また、一人ずつの楽器を備え、みんなで合奏する楽しさも体験しています。 ・保育士は子どもの年齢に合った言葉かけや接し方をするように、保育士間で確認し合う仕組みがあります。大きすぎない穏やかな声と優しい言葉で子どもに接し、子どもは安心して保育士に甘えています。また、園では担当クラスの子もだけでなく全園児の顔・名前・個性を把握するように心がけています。子どもたちは多くの職員から話しかけてもらい、抱き寄せてもらって、園での生活をのびやかに過ごしています。 ・マット・跳び箱・鉄棒等の運動具を揃え、屋上や保育室で年齢や発達に応じた運動の環境を作っています。しかし、散歩の回数については比較的少ない頻度となっています。

【さらに望まれる点】

- ・園では、園周辺に散歩に適した場所が少ないと捉えており、散歩に出る機会が比較的少ない状況です。今回の保護者アンケートにおいても自然に触れる戸外遊びの少なさについてのコメントが複数見られます。戸外遊びへのさらなる取り組みが期待されます。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・5歳児は給食当番を決め、割烹着・三角巾・マスクを着用して、配膳の手伝いをしています。また、玄関の給食サンプルケースの横には、三色食品群のわかりやすい展示スペースを設けています。給食当番の子どもたちは、その日の給食に使われた食材を、それぞれのボードに分類して貼り、食べ物大切さを学んでいます。
- ・給食は、運営法人で法人全体の献立を作成していますが、子どもの日・七夕・七五三・クリスマス・節分・ひな祭りといった季節の行事食には園独自のアイデアも取り入れています。クリスマスの行事食は幼児クラスでピュッフェ形式にし、自分で食べられる量を盛り付ける楽しみも体験しています。
- ・毎年、年度初めの保育参観日には保護者に給食の試食をしてもらっています。給食の味付けや調理法を知ってもらおうと共に保護者からの食事に関する質問も受けています。
- ・午睡時の保育室は、子どもの様子がわかる程度の明るさを確保してカーテンを引き、午睡の環境を整えています。入園時に保護者から、子どもの入眠しやすい方法を聞き取り、抱っこやおんぶ、または傍らで身体をトントンするなど、子どもが安心して眠りにつけるような援助をしています。
- ・乳幼児突然死症候群の予防対策として、0歳児の6か月までは5分毎、7か月以降の0歳児クラスと1歳児クラスは10分毎にプレスチェックを行っています。
- ・トイレトレーニングの開始時期については、各子どもの排尿間隔を把握し、保護者との連携を密にもち、焦ることなく始める姿勢でいます。2歳児クラスまでは連絡帳があり、排泄状況を記録する欄を設けて、家庭と園の情報交換をしています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・子どもの健康管理に関するマニュアルがあります。毎朝、このマニュアルに沿った視診と保護者からの情報を元に子どもの健康状態を視診簿に記録しています。看護師がこの視診簿の確認と、子どもたちの様子の確認に毎朝各クラスを回る仕組みがあります。
- ・子どもの健康管理に、年4回の健康診断、年2回の歯科健診、毎月の身体測定、年1回の尿検査(3歳児から)を行い、結果は一人一人のファイルに整備しています。保護者に対しては、健診の都度結果を記録カー

ドに記載して渡し、確認・押印してもらい、年度末には一年間の記録として保護者に渡しています。

- 保育中に高熱や嘔吐等が発症し感染症が疑われる場合には、速やかに保護者に連絡し、子どもは職員室で看護師が付き添って休ませ、迎えの保護者を待つようにしています。
- 感染症が園内で発症した場合には、玄関ホールに備えた保健関連用の掲示板で、症状や潜伏期間等の情報を提供し保護者への注意喚起を促しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



(4) 衛生管理が適切に行われているか。

- 衛生管理に関するマニュアルがあり、マニュアルは運営法人の看護師会で適宜見直しを行っています。園内研修は、看護師が嘔吐処理法を年に数回実施しています。汚物処理用のセットを園内全ての手洗い場に備えるなどの具体的な対策をして衛生管理の徹底をしています。また、年2回、午睡用布団の乾燥消毒、及び園内外の害虫駆除を、専門業者に依頼しています。園内は適切に清掃が行われ、清潔が保たれています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



(5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
 (6) 事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
 (7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- 安全管理に関するマニュアルがあり、室内の備品には地震等を想定して転倒防止シートを敷く他、日ごろから棚の上には出来るだけ物を置かないように心がけています。また、園舎2階の非常口には、園児の非常用の靴を備える他、災害発生時に一斉に非常口に殺到する事態をも想定し、各保育室にも非常用の靴と防災頭巾を出入口に常備しています。
- 毎月、地震・火災・津波、不審者等を想定した避難訓練を実施しています。さらに、年1回は大規模災害を想定して保護者参加の「引き渡し訓練」も行っています。緊急時の保護者への連絡は一斉メール配信の体制があります。
- 消防署による救急救命法の講習を全職員が受講しています。
- 保育中の子どものケガについては軽いものであっても必ず保護者に報告しています。医療機関で受診した場合には「事故報告書」に記録し、受診を必要としない場合には「ひやりはっと・アクシデントレポート」に記録しています。どちらの報告書も発生状況・原因・改善策等の項目を設け再発防止に取り組んでいます。
- 不審者侵入への対策として、民間警備会社と契約しています。また、不審者侵入を想定した避難訓練を年2回実施しています。園の出入口は施錠し、インターフォンで顔と名前の確認が出来た場合に開錠する体制になっています。

Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4) 性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- 子どもの人権尊重については、運営法人で定めた「保育ガイド」に明示し、このガイドブックを元に入職時に研修を行っています。園内では年度初めに園長が子どもの人権について話す他、ガイドブックの読み合わせも行っています。
- ゆとりのある保育の時間配分を心がけており、急かす場面は見受けられません。保育士は穏やかな声と言葉で子どもに向き合い、子どもの気持ちや行動の受け止め方として、大人の都合で子どもの行動を制限しないように心がけています。
- 子どものプライバシーに配慮して、身体測定等で子どもが裸になる時には外部からの視線を遮るようにしています。また、幼児用トイレには仕切りや扉をつけています。乳児用トイレにおいても1か所は子どもが座って見えない程度の仕切りがあるトイレを用意し、子どもが自分で選べるようにしています。
- 運営法人で定めた個人情報管理規定があり、全職員（ボランティア・実習生を含む）が入職時にこの規定に基づいた研修を受け「機密保持誓約書」を提出しています。
- 個人情報に関する書類は事務室内に施錠して管理し、園外への持ち出しを禁止しています。
- 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的に話すことはしていません。連絡帳の記入においても、この点に意識を持つように日頃から指導しています。

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。

- 入園説明会では「入園のしおり」にそって、園の理念及び保育方針を保護者に説明しています。年度初めの懇談会においても全体の保護者に向けて、保育の基本方針を説明しています。
- 0、1、2歳児クラスは毎日所定の連絡帳を用いた情報交換を行っています。3歳児クラス以上は自由帳形式の連絡帳で、週に2回程度の情報交換を行っています。その日のクラスの主活動についてのお知らせは掲示板があり、連絡帳への記載は掲示板に書いたこと以外の子どもの様子を書くように、丁寧な配慮をしています。
- 保護者からの相談には、保育室とも離れ独立した部屋である遊戯室を相談室として用意し、保護者が落ち着いて相談が出来るようにしています。
- クラス懇談会では、年間の保育目標から月間の目標へ、さらにそれを踏まえて日々の保育があることをわかりやすく保護者に伝えていきます。また、毎月のクラスだよりには各クラスの今月の保育のねらいを具体的に記載しています。
- 子どもの写真については外部の専門業者によるウェブ上の掲載となって



いて（日常の保育の様子は保育士が撮影、行事写真は専門家による撮影）パスワードによる閲覧で、希望者は購入することも出来ます。園のブログについても頻繁に更新が行われ、日々の園内の様子がよくわかるようになっていきます。

- 保育参観は年に2回設定していますが、希望があれば随時受け入れています。毎月の子どもたちの誕生会への参加も保護者に声をかけ、誕生会では保護者へのインタビューコーナーも設けています。




【課題・望まれる点】

- 保護者とは良好な関係を築いていますが、現在のところ保護者会もなく、保護者の継続的な自主的活動は行われておりません。

評価領域Ⅲ 地域支援機能



評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> <p>(1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<div style="text-align: right;"></div> <ul style="list-style-type: none"> • 園見学者や、園主催の育児講座参加者から、地域の情報や園へのニーズを得ています。 地域住民に対して育児相談を受け付け、子育てに関する地域ニーズの把握にも役立てています。 • 地域への子育て支援として、園庭開放、交流保育、絵本貸し出し等を実施しています。また、保育園体験ともなる「あそびにきてね」を、年に6回実施しています。絵本の読み聞かせや、制作（七夕飾りやクリスマス飾り）を、地域の親子連れに体験してもらっています。 <p>【課題・望まれる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 園は、地域の子育て支援に関する地域活動団体や関係機関と検討会等を行うには至っていません。地域の子育て支援関連団体とのつながりを育て、保育の専門性を地域に向けて活かす、さらなる取り組みが期待されます。
<p>Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能</p> <p>(1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。</p> <p>(2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<div style="text-align: right;"></div> <ul style="list-style-type: none"> • 育児相談を随時、受け付けています。毎月1回の臨床心理士による育児相談を行う他、園の栄養士や看護師による育児相談にも応じています。 • 地域住民からの相談に必要なと思われる関係機関は一覧にして職員室に常備し、職員はいつでも活用することができます。藤沢市子ども家庭課、近隣小学校、民生委員児童委員等とは、園長が日常的な連携をとっています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> <p>(1) 保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<div style="text-align: right;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民に保育所を理解してもらい友好的な関係を築くために、朝夕の日常的な交流から進める姿勢でいます。開園３年目となり、身近な相談をしたり、七夕飾りの笹をいただいたりする等の関係が構築され始めています。園は、お正月遊び・七夕・夕涼み会・夏祭り・運動会等の園行事に地域住民を招待しています。 ・小学校との交流として、５歳児の就学に向けた学校訪問を実施しています。中学校との交流としては、中学生の職業体験を受け入れています。今秋には、中学校の授業の一環として幼児との触れ合いをしたいという申し入れがあり、新たな交流が始まります。園長は、幼保小連携事業の定例会議や藤沢市園長会に参加し情報交換を行っています。 ・地元の老人ホームとは、園の発表会の予行練習にお年寄りを招待して、練習を見てもらったり、老人ホームを園児が訪問して歌や手遊びを一緒に楽しんだりする交流を続けています。 <p>【課題・望まれる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開園３年目という事もあり、未だ地域の団体・機関と定期的に交流を図るには至っていません。今後の取り組みに期待されます。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> <p>(1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。</p> <p>(2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<div style="text-align: right;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレットやホームページには、園の保育理念・保育方針・保育目標を明示し、保育時間・園の一日・園行事等の将来の利用者が関心のある事項について記載しています。 ・利用希望者からの問い合わせには見学が出来ることを案内し、出来る限り見学希望者の都合に合わせた対応を行っていますが、なるべく子どもたちの活動の様子を見てもらえる時間帯を勧めています。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p> <p>(1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。</p> <p>(2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<div style="text-align: right;"></div> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア・実習生受け入れの為にマニュアルがあり、園の方針及び守秘義務を含めた利用者に配慮すべき事柄を明記しています。事前に行うオリエンテーションでは、マニュアルに基づき保育の心得を丁寧に説明しています。 ・ボランティアは、主に中学生の職業体験を受け入れています。又、ハーモニカの演奏グループや人形劇団（有償ボランティア）も毎年訪れています。

• 実習生の実習プログラムは、学校の要望を考慮し学生の希望を聞き取った上で、効果的な実習となるように工夫しています。実習生には毎日の休憩時にもクラス担任に質問が出来るように配慮し、最終日には園長・主任・クラス担任を交えた反省会で実習の振り返りを行っています。園はこの実習経験が、学生の将来への希望と期待へ繋がるようにとの思いで、実習生を育てています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>V-1 職員の人材育成</p> <p>(1) 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。</p> <p>(3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> • 園の人材管理は園長と運営法人の連携によって行われています。必要な人材は逐次補充されています。園の理念・方針をふまえた人材育成計画が運営法人によって策定されており、人材育成のための年間計画が実施されています。 • 研修担当者は主任となっており、職員の希望やニーズを把握して研修計画を作成しています。今年度、園独自の研修として、「自己評価を通して保育を見直す」を掲げ毎月第2木曜日に実施しています。毎月1回の職員会議は研修発表の場とし、職員が外部で受けてきた研修内容を他の職員・非常勤共に確認できるようにしています。アレルギー対応の研修では成果が活かされ、現場改善につながっています。 • 非常勤職員への指導は主任が担当しています。業務終了後、事務室で今日あった事、仕事上の疑問などを話したりし、コミュニケーションが図られています • 非常勤職員はパート会議を開き、職員会議などで話し合われた重要事項など園内の情報共有、気付き、等を話し合っています。非常勤職員も希望すれば研修に参加できるようになっています。
<p>V-2 職員の技術の向上</p> <p>(1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p> <p>(2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。</p> <p>(3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> • 職員は「チャレンジ共有シート」（自己評価表）を年度初めに記載し、年間の自己目標を設定しています。年2回の園長との面談を通して達成度の評価を行っています。今年度は担当年齢ごとの研修に参加し、年齢に合った言葉がけを学んでいます。研修内容は職員会議、クラスミーティング、カリキュラム会議などで、話し合わせ、日々の業務のスキルアップが行われています。 • 年間指導計画、保育月案、週案、日誌、児童票などについては、各々に振り返り、自己評価を行っています。計画で意図したねらいと関連付けた振り返りを基に、次の計画作成を行っています。 • 職員の自己評価を基に作成される、園としての自己評価「にじいろの保

育」は、保育理念に基づき、教育、環境、言葉、人権など様々な分野で活用されています。作成した「にじいろの保育」は、玄関ホールにファイルされ掲示されています。



V-3 職員のモチベーション維持



(1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・園長・主任は職員のバランスを考え業務に関する分担を決め、できる限り、現場で考えて動けるよう、権限委譲を行っています。
- ・園長、主任は、できる限り保育室を巡回し、日常的なコミュニケーションを大切にし、職員の考えをくみ取ったり、相談を受けたり、業務改善の提案を受けたりしています。職員と園長との面談においても職員からの提案、要望・満足度などを把握し、モチベーションの維持を図っています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<h3>VI-1 経営における社会的責任</h3> <p>(1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・保育ガイドには人権遵守、倫理規定が明文化されています。全職員に配布されている「サクセス保育者ナビ」にも法令順守、倫理等が明文化されています。保育ガイドの内容については、会議等で読み合わせを行い、職員に周知を図っています。 ・環境への取り組みを明文化したものを職員室に掲示しています。冷暖房温度の設定や節電、節水(蛇口の水压調整)を行ったり、夏場はゴーヤやキュウリを育てグリーンカーテン化を図ったりして、省エネルギーの促進・緑化の推進に取り組んでいます。
<h3>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</h3> <p>(1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・理念、基本方針は玄関、職員室、休憩室に掲示し、常に意識して業務にあたれるようにしています。園長は日常的に保育において気がついたことを職員に伝え、保育方針の共通理解を深めるようにしています。また、クラスミーティング、職員会議においても、保育の方向性を折に触れ話すことにより保育方針の理解を深めるようにしています。 ・平成27年度「子ども子育て支援制度」の導入により、重要事項の変更があり、保護者全員に周知する機会を設けました。懇談会では重要事項説明書を配布し、変更事項の説明を十分行いました。 ・主任はフリーの立場で毎日各保育室を回っています。必要に応じてクラ

スに入ることもあります。職員全体の様子を把握しながら、積極的にコミュニケーションを取っています。コミュニケーションを基に、職員の健康面、精神面に配慮しながらシフトや配置の調整を行っています。

- 主任は全ての会議に出席し、保育日誌、週案、月案、児童票などに目を通したりして、個々の職員に対して的確な助言や指導を行っています。

VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- 園長は保育園運営に関する情報を新聞記事やニュース、藤沢市園長会、運営法人の園長会に出席し情報の収集し分析を行っています。事業運営に影響のある情報を得た場合は職員会議などで話し合うようにしています。特に重要な情報については運営法人の園長会で提示され、職員会議で職員に周知しています。
- 中長期計画は運営法人と協議し、園独自の中長期計画を作成しています。運営法人は社会的動向を研究したり、より良質な保育サービスを提供できるよう検討会を行ったりしています。また、次代の組織運営に備えて、主任、リーダー研修を行っています。

利用者（園児）家族アンケートの結果概要

●実施期間

2016年7月26日～8月9日

●実施方法

- ① 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
- ② 各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。

●回収率

回収率：65.2%（69枚配布、45枚回収）

【結果の特徴】

※以下で「満足度」とは、「その他」「無回答」を除く回答総数における、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計の割合です。

(1) 満足度が高かった項目

問2：見学の受け入れについて	100.0%
問2：入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	100.0%
問4：給食の献立内容については	100.0%
問7：あなたのお子さんが大切にされているかについては	100.0%
問7：アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	100.0%

(2) 満足度が低かった項目

問4：自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	74.4%
問4：子どもが外遊びを十分しているかについては	79.1%
問5：外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	88.4%

(3) 総合満足度

問8：総合満足度は	93.4%
-----------	-------

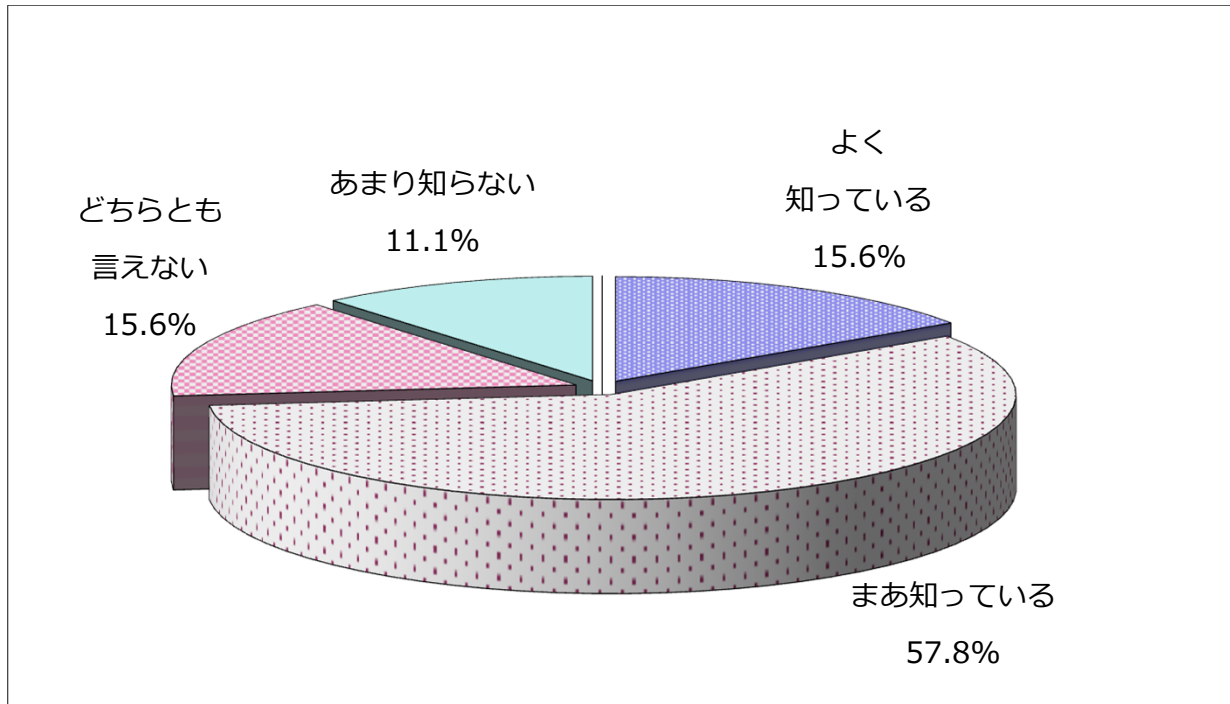
(4) 中項目ごとの平均満足度

問2：入園時の状況について	98.0%
問3：年間の計画について	95.1%
問4：日常の保育内容「遊び」について	89.6%
問4：日常の保育内容「生活」について	96.1%
問5：快適さや安全対策などについて	93.7%
問6：園と保護者との連携・交流について	94.4%
問7：職員の対応について	98.2%

利用者（園児）家族アンケート 集計結果・分析

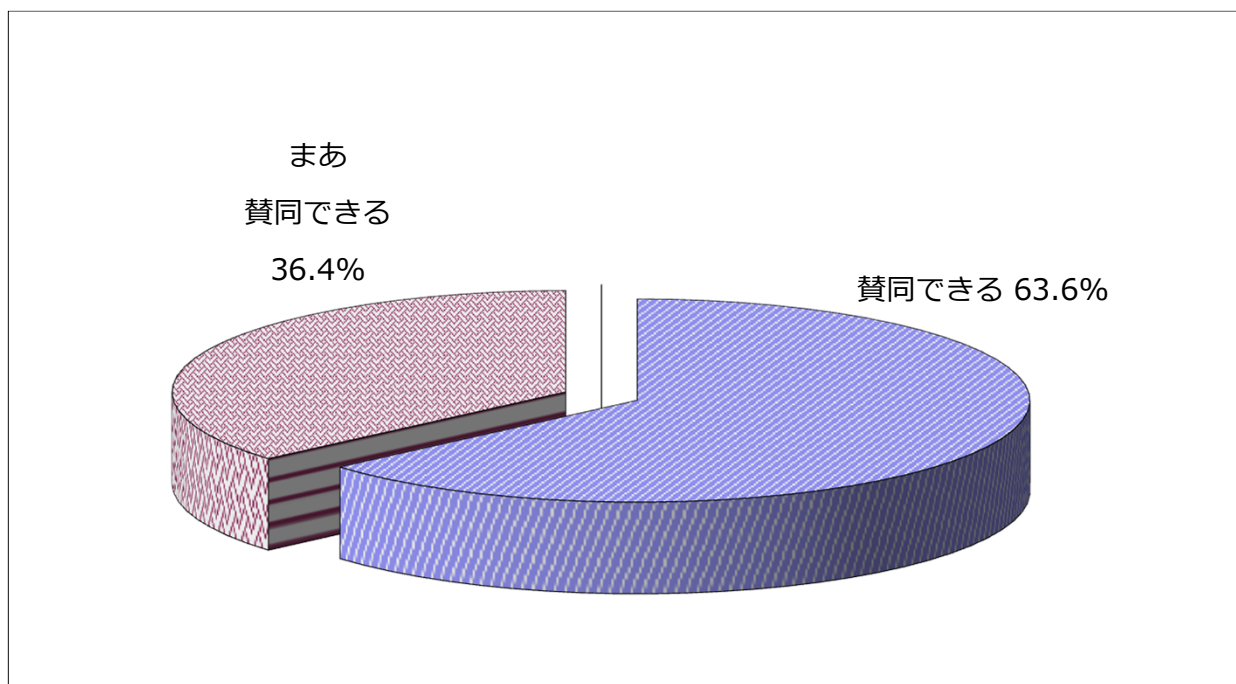
■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

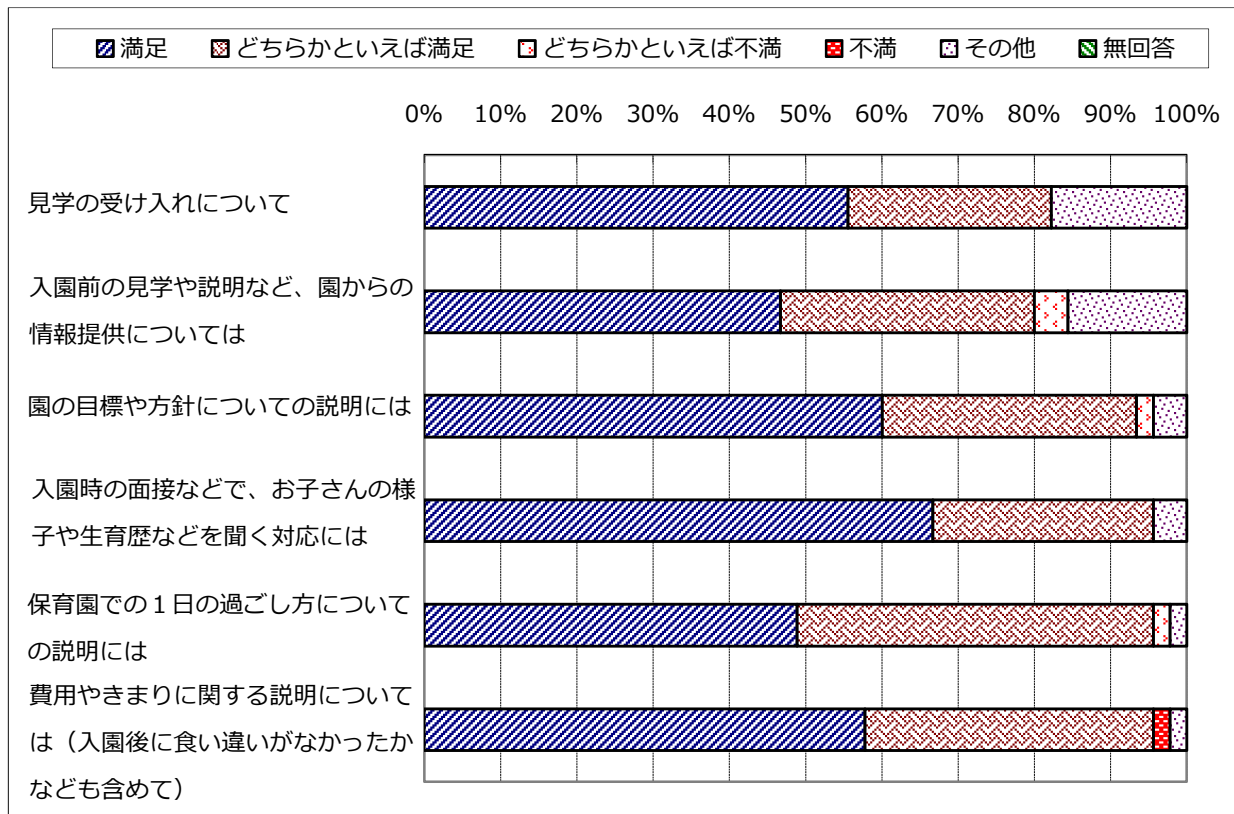


■ 保育園のサービス内容について

(%)

問2 入園時の状況について

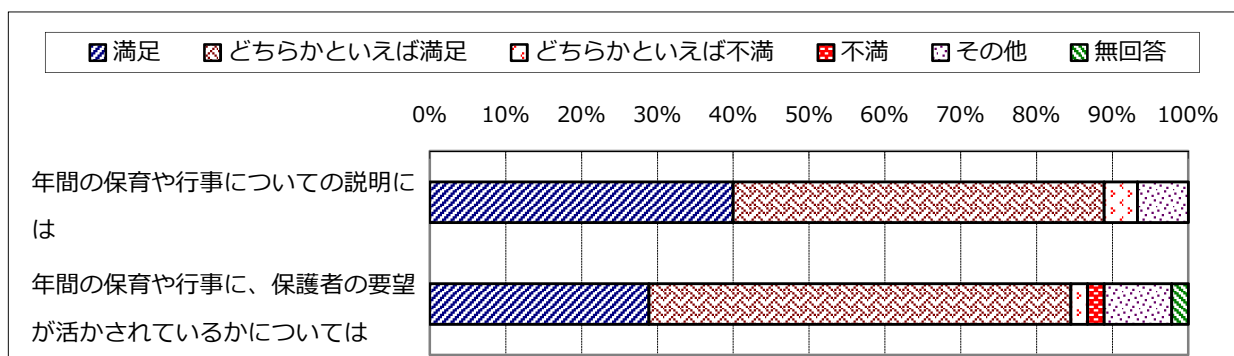
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについて	55.6	26.7	0.0	0.0	17.8	0.0
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	46.7	33.3	4.4	0.0	15.6	0.0
園の目標や方針についての説明には	60.0	33.3	2.2	0.0	4.4	0.0
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	66.7	28.9	0.0	0.0	4.4	0.0
保育園での1日の過ごし方についての説明には	48.9	46.7	2.2	0.0	2.2	0.0
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	57.8	37.8	0.0	2.2	2.2	0.0



(%)

問3 年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	40.0	48.9	4.4	0.0	6.7	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	28.9	55.6	2.2	2.2	8.9	2.2

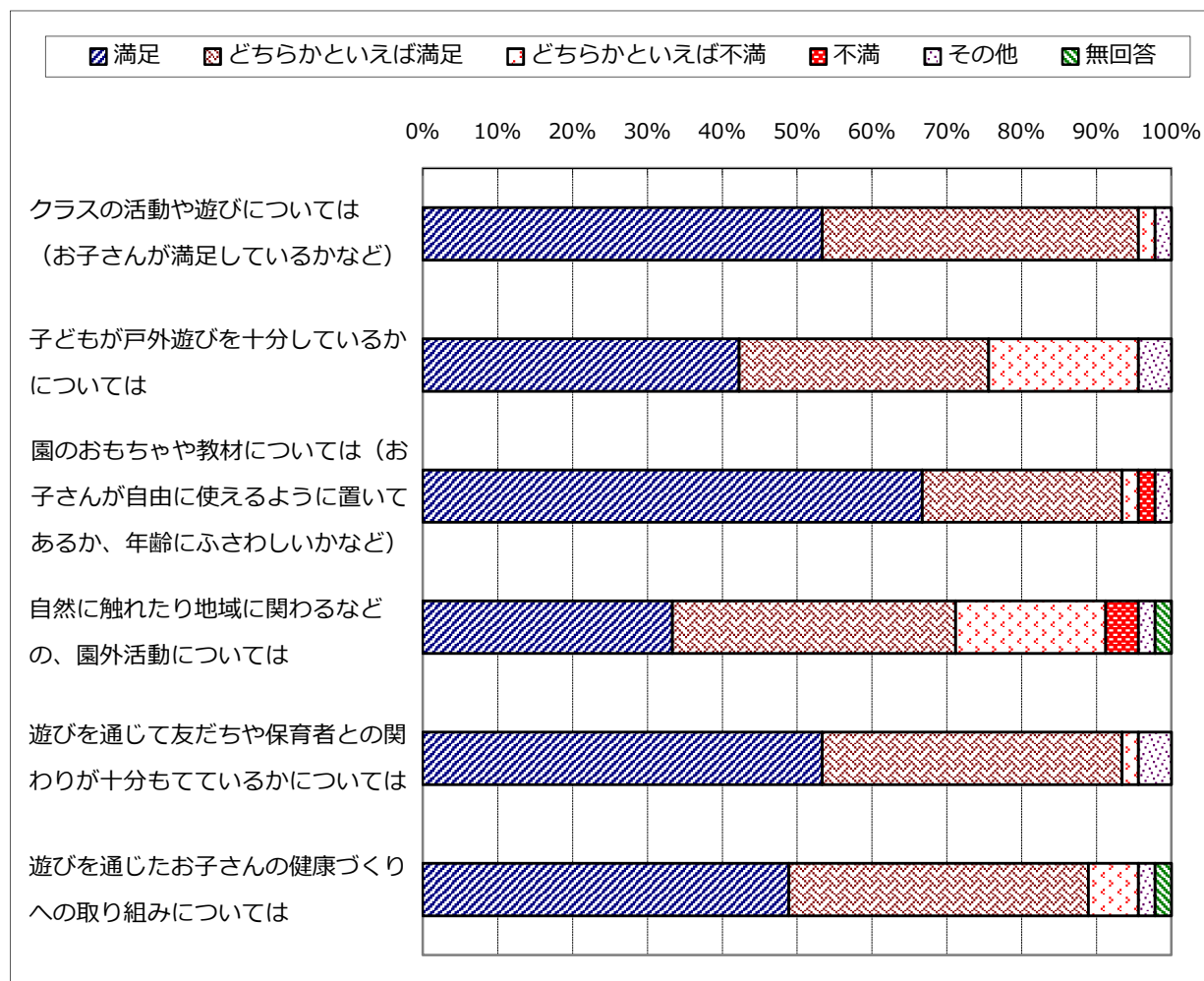


問4 日常の保育内容について

● 「遊び」について

(%)

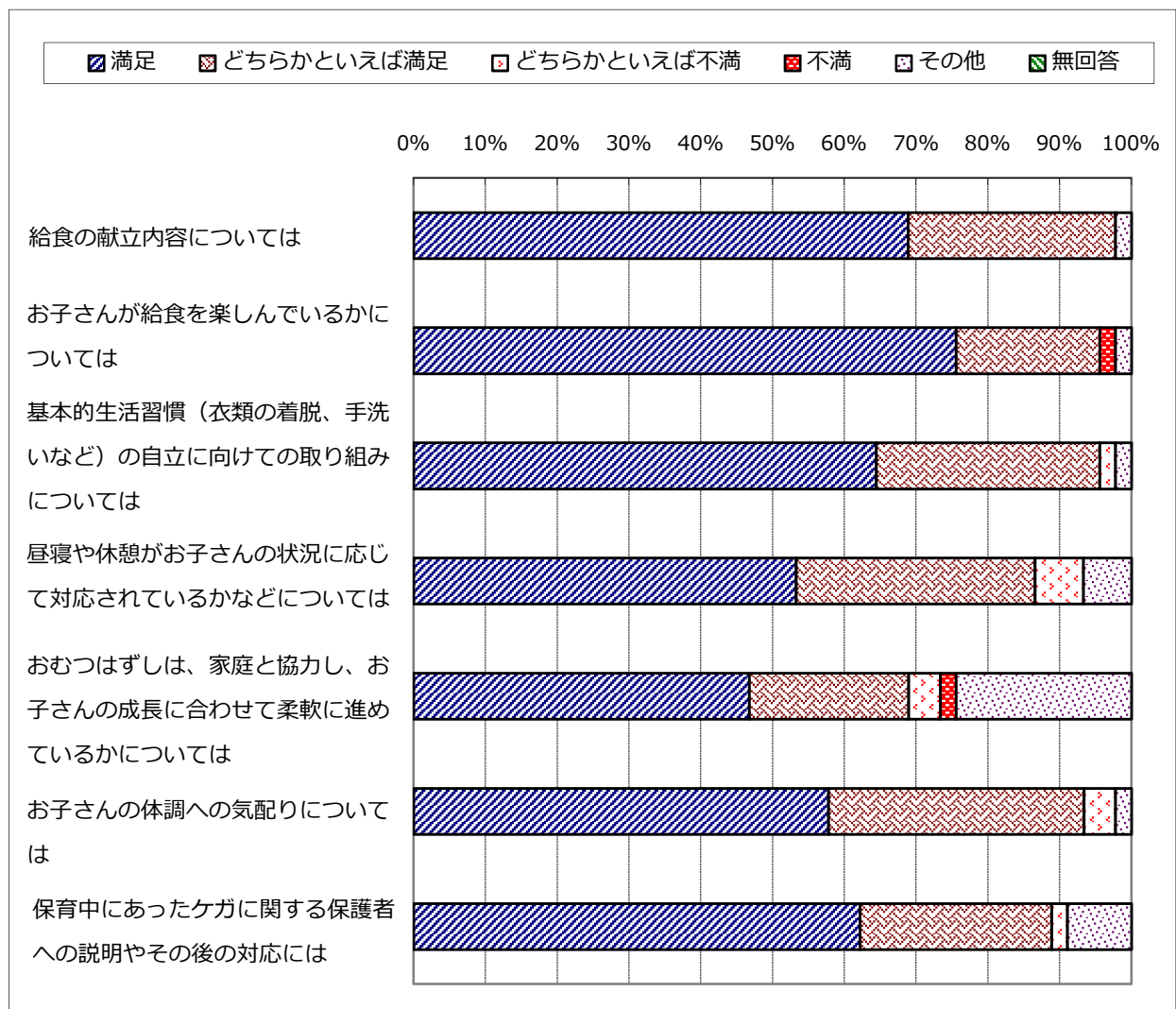
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	53.3	42.2	2.2	0.0	2.2	0.0
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	42.2	33.3	20.0	0.0	4.4	0.0
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	66.7	26.7	2.2	2.2	2.2	0.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、 園外活動については	33.3	37.8	20.0	4.4	2.2	2.2
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	53.3	40.0	2.2	0.0	4.4	0.0
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.9	40.0	6.7	0.0	2.2	2.2



●「生活」について

(%)

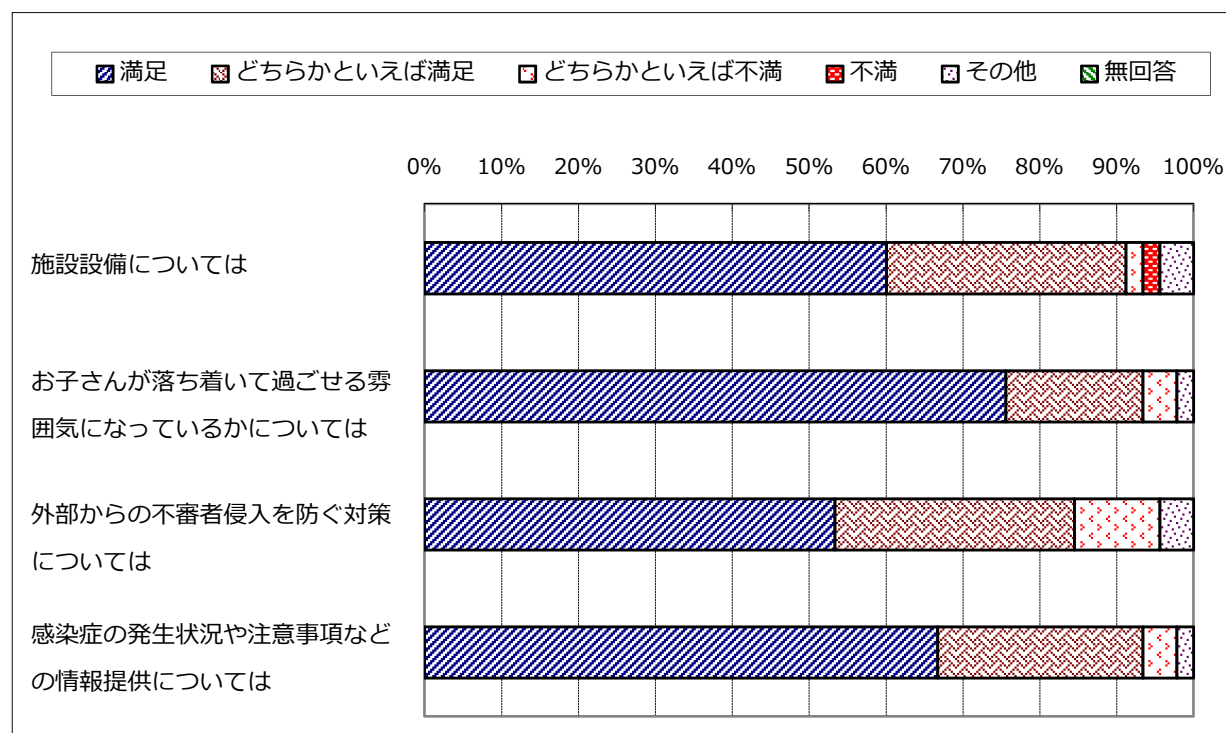
	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	68.9	28.9	0.0	0.0	2.2	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.6	20.0	0.0	2.2	2.2	0.0
基本的な生活習慣（衣類の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	64.4	31.1	2.2	0.0	2.2	0.0
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	53.3	33.3	6.7	0.0	6.7	0.0
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	46.7	22.2	4.4	2.2	24.4	0.0
お子さんの体調への気配りについては	57.8	35.6	4.4	0.0	2.2	0.0
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	62.2	26.7	2.2	0.0	8.9	0.0



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

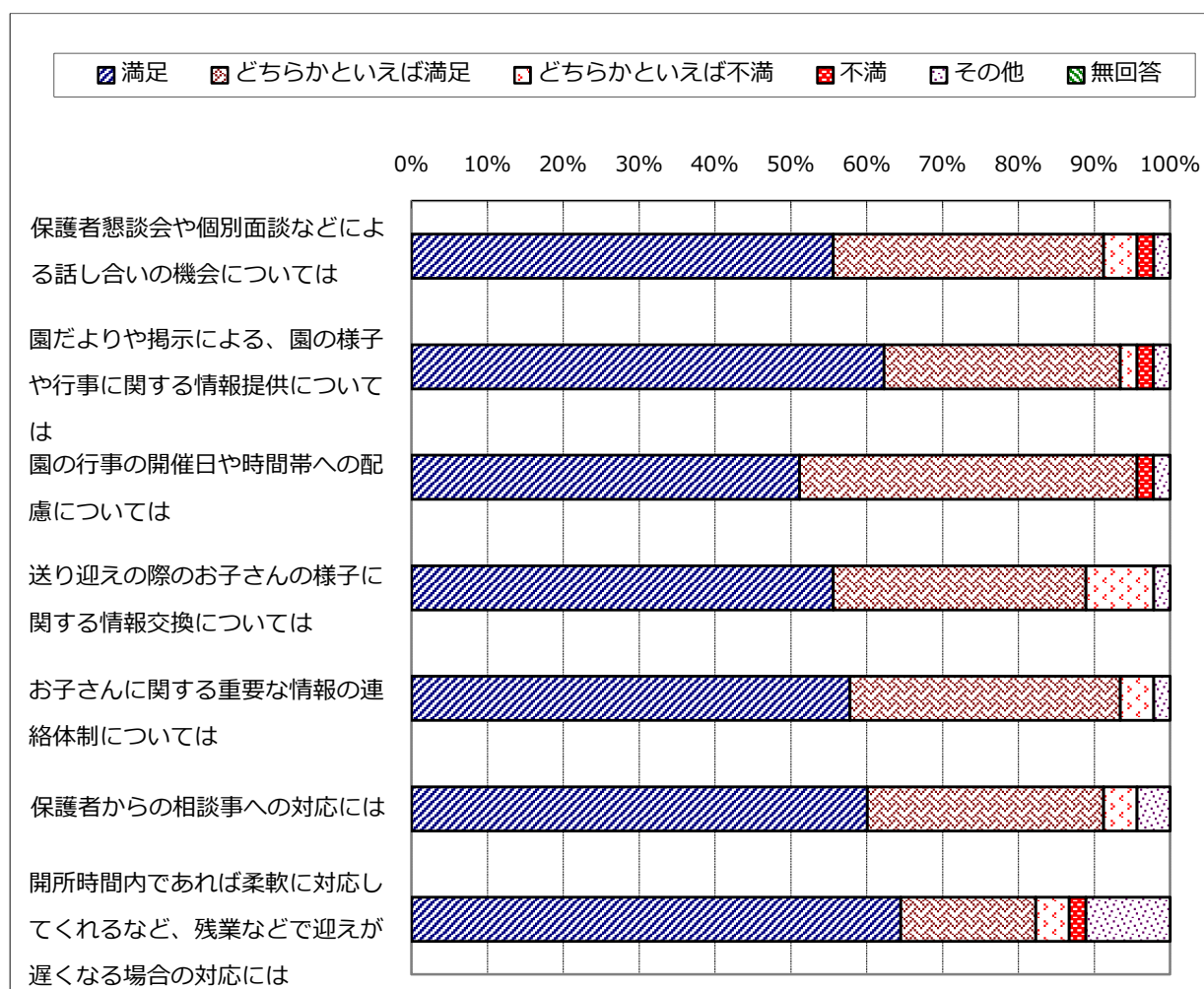
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	60.0	31.1	2.2	2.2	4.4	0.0
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	75.6	17.8	4.4	0.0	2.2	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	53.3	31.1	11.1	0.0	4.4	0.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	66.7	26.7	4.4	0.0	2.2	0.0



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

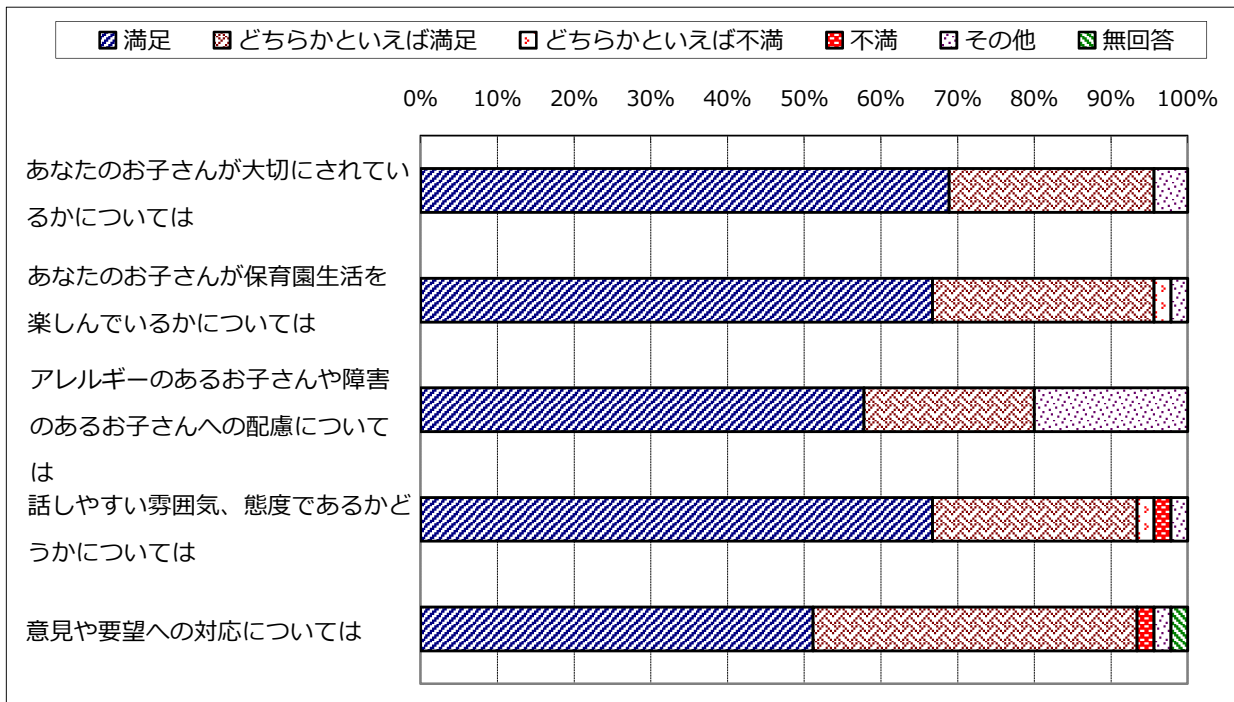
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	55.6	35.6	4.4	2.2	2.2	0.0
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	62.2	31.1	2.2	2.2	2.2	0.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	51.1	44.4	0.0	2.2	2.2	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	55.6	33.3	8.9	0.0	2.2	0.0
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	57.8	35.6	4.4	0.0	2.2	0.0
保護者からの相談事への対応には	60.0	31.1	4.4	0.0	4.4	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	64.4	17.8	4.4	2.2	11.1	0.0



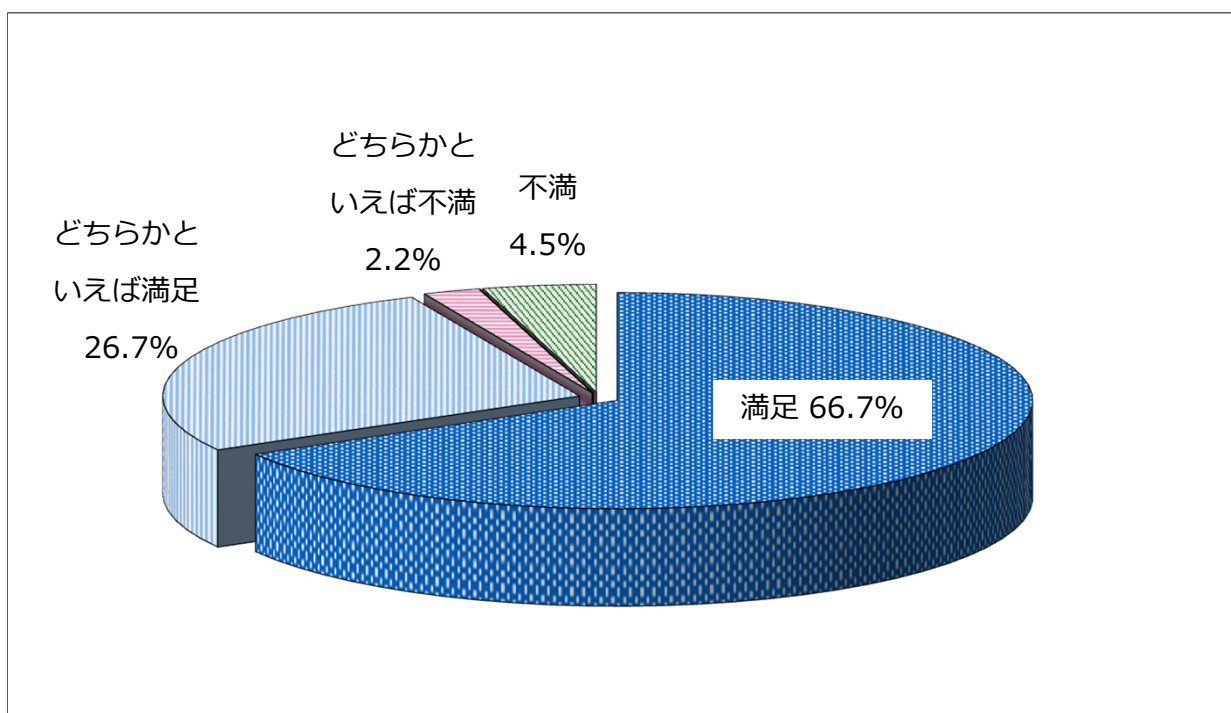
問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	68.9	26.7	0.0	0.0	4.4	0.0
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	66.7	28.9	2.2	0.0	2.2	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	57.8	22.2	0.0	0.0	20.0	0.0
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	66.7	26.7	2.2	2.2	2.2	0.0
意見や要望への対応については	51.1	42.2	0.0	2.2	2.2	2.2



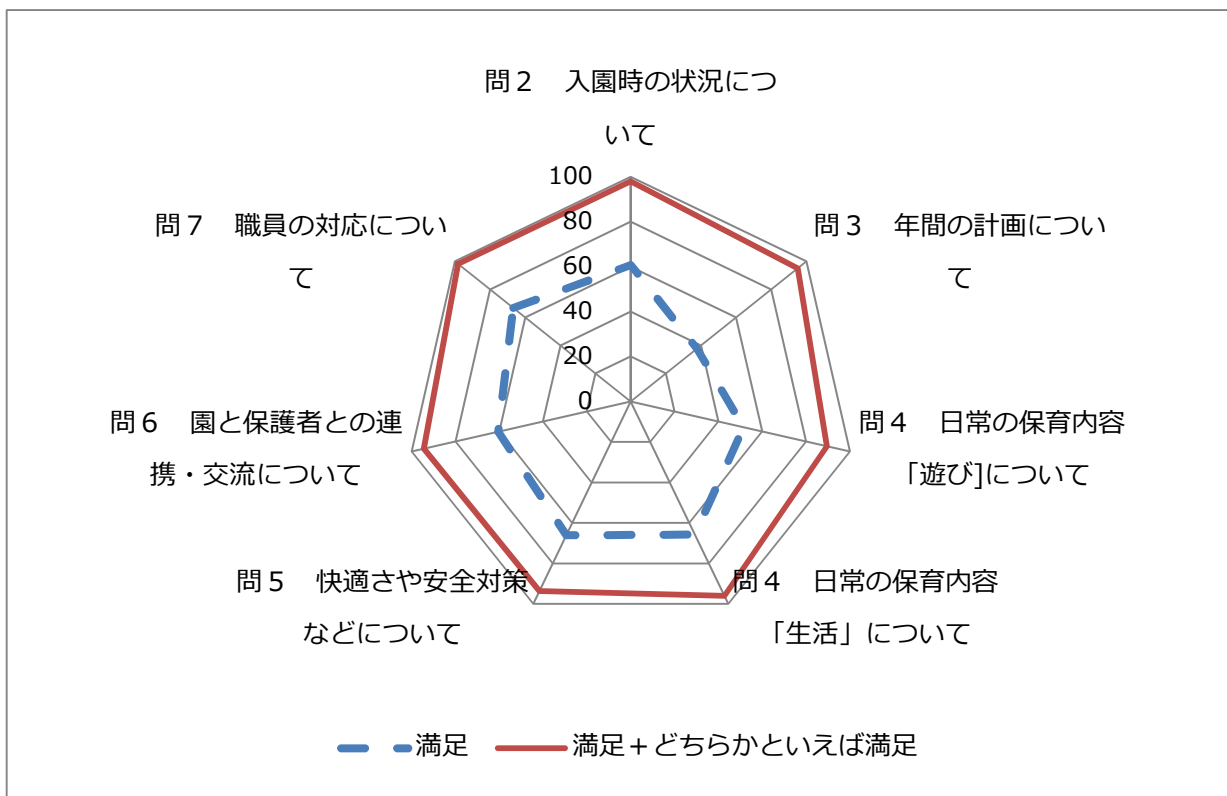
問8 保育園を総合的に評価すると



【参考資料：中項目別平均満足度割合】

(%)

中項目	満足	満足+どちらかといえば満足
問2 入園時の状況について	60.8	98.0
問3 年間の計画について	37.7	95.1
問4 日常の保育内容 「遊び」について	51.5	89.6
問4 日常の保育内容 「生活」について	65.7	96.1
問5 快適さや安全対策などについて	66.0	93.7
問6 園と保護者との連携・交流について	60.6	94.4
問7 職員の対応について	66.8	98.2



※各中項目は、2～7つの小項目によって構成されており、各小項目の満足度割合から平均値を算出した。

※ここでの「満足度割合」は「その他」「無回答」を除外して計算してある。

利用者（園児）本人調査の結果概要

実施日：9月26日（月曜日）・9月27日（火曜日）

実施方法：観察調査を調査員が各クラスで実施し、保育活動を観察した。

幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

●0歳児クラス（だいち）

朝の保育室は、子どもたちが機嫌よく思い思いの遊びをしています。保育士手作りの布製の10cmほどの高さのなだらかなお山（斜面台）が、子どもたちのお気に入りになっています。お山を這い這いで登ったり、友だちと並んで座ったり、バランスをとりながら立って段差を上げられるようになった子どももいます。

朝おやつ準備です。保育士の「お片付けしましょう」に、子どもたちは収納かごにポンポンとおもちゃを入れていきます。「ナイナイ」と言葉の出る子どももいます。集団生活の中で出来ることが毎日増え、上手になって行く、だいち組の子どもたちです。「お手々洗うの、上手になったね」昨日まで出来なかったことが、今日は出来るようになった喜びが保育室に広がります。

昼食時間です。月齢の低い子どもは離乳食を保育士に食べさせてもらっています。スプーンで口に運んでもらい、保育士が向き合って一緒にもぐもぐと口を動かして子どもに見せています。他の子どもたちは、自分で手づかみで食べたり、保育士にスプーンで食べさせてもらったりしながら一生懸命の食事風景です。「〇〇ちゃん、上手だね」、「おいもおいしいね」、「みんな、食べられたね」、汁椀を両手で持って飲むことを教えてもらい「できたね!」、保育士からたくさんほめてもらい、毎日ぐんぐん成長します。

●1歳児クラス（そよかぜ） 2歳児クラス（ふたば）

低い棚を仕切りにして保育室を2分割した、合同のクラスです。朝の時間は両方の保育室を行き来して2クラスと一緒に遊んでいます。机に向かって、ジグソーパズルをする子どもたち、人形を大事そうに抱えている子ども、大きなブロックをつなげて遊ぶ子どもたち、みんなそれぞれに楽しそうです。保育士の周りに集まってごっこ遊びをするグループもいます。保育士の膝で甘える子どもの姿もあります。

2クラスに分かれて活動が始まりますが、自然に各クラスになるように一人一人の気持ちにそってゆるやかに移動しています。1歳児クラスのトイレの入り口前には、手作りのパーテーションで仕切ったおむつ替えコーナーを作っています。おむつ替えをする時に濡れていない場合には便器に座らせています。トイレが嫌いにならないように保育士が目の前に座ってゆっくり向き合っています。便器での排泄が出来ても出来なくても、体験を重ねてトイレトレーニングが進みます。

・1歳児クラス（そよかぜ）

1歳児クラスは音楽をかけて、ダンス遊びが始まりました。保育士の動きに合わせてのダンスは、まだ全部一緒に踊ることは難しそうですが、身体中でリズムをとって、1曲が終わるとみんなで手をたたいて喜んでいきます。音楽と子どもたちの声に惹かれて2歳児クラスの子どもの目も数人覗きにきています。

言葉が十分に出ない年齢のクラスですから、おもちゃの取りっこや気持ちの行き違いで小さなトラブルも頻繁に起こります。保育士は危険な時には、子どもに「いけない」と、しっかり言い聞かせます。見ていた本を黙って取りあげられた子どもには「返してって言いに行こう」と、友だちと向き合わせると友だちは「返して」の言葉にずっと本を返してくれています。「ごめんね」を学び、仲良しのルールを学ぶ始まりです。

・2歳児クラス（ふたば）

2歳児クラスは屋上で外遊びです。3階までの階段を「がんばーれ!がんばーれ!」と、大声をかけあい

ながら登って行きます。間近に迫った運動会の仕上げをする予定です。一列に並んで、「位置についてー」、「用意！」の掛け声、「ピッ」の笛で走り出す、かけっこです。今までの練習の成果で、みんな揃って走り出すルールをよく理解しています。次は、動物の形になってゴールまで歩く遊びです。両手で耳の形を作ってジャンプしながら「ウサギさん」、四つん這いで「ワニさん」、膝を折ってよちよち歩きで「アヒルさん」、大喜びの子どもたちです。早くゴールした子どもはみんなに「がんばーれ！」の応援コールです。

●3 歳児クラス（うみ） ●4 歳児クラス（そら） ●5 歳児クラス（たいよう）

通常はそれぞれ独立したクラスですが、訪問時は運動会間近で、保育室を仕切る天井からのパーティションを開き、広いワンルームにしていました。活動はクラス毎であったり、2 クラス 3 クラスでの合同であったりと、柔軟なプログラムになっていました。

・3 歳児クラス（うみ）

広い廊下で、運動会の応援の練習が始まりました。観客席はこのあたり、かけっこやダンスをするのはこのあたり、子どもたちの想像の世界が出来上がっていきます。元気な音楽も、想像力を盛り上げます。保育士のダンスに合わせて、手作りの赤いポンポンを手にした子どもたちが元気っぱいの応援団です。子どもたちからは本番さながら、「〇〇ちゃん頑張れー」「おとうさん頑張れー」「お母さん頑張れー」の声です。屋上で外遊びです。子どもたちは大好きな鬼ごっこに大はしゃぎで走り回ります。あちこちで友だち同士でぶつかったり、トラブルが起きたりしています。泣いている子どもに保育士が話を聞いていますが、鬼になった他の友だちに保育士が捕まってしまいました。仕方がなく、泣いている子どもを抱きかかえての鬼ごっこが続きます。先生に抱かれて走るうちに、子どもはいつの間にか泣き止んでいます。

・4 歳児クラス（そら）

お絵かきをしています。季節の果物、ブドウがモチーフです。画用紙からあふれそうな大きなブドウを描く子どもや、小粒のブドウを描く子ども、それぞれのイメージのブドウが並びます。彩色では紫色を 1 色で塗るだけでなく、赤と青を混ぜると紫色になることを習っています。ブドウの茎には茶色だけではない色が混じっていることも教えてもらいました。お絵かきは科学の目、観察の目を学ぶ場にもなっています。

混色の具合で美しい色を作ったり、茶色の茎に黄緑色の線を入れたり、子どもたちの素敵な作品です。「大きなブドウだね」「食べたくなるね」「きれいな色になったね」一人一人の作品を、ほめてもらいました。

自由遊び時間、子どもたちの手遊び歌がクラス中に広がりました。唱歌の輪が 2 つ 3 つと続き、穏やかなメロディーに子どもたちの手遊びに興じる明るい声が混ざります。

・5 歳児クラス（たいよう）

折り紙で鶴を作る制作の時間です。いつもより少し大きめの折り紙が用意されています。一人ずつ好きな色を選んで机についています。一人で折ることが出来る子どももいますが、少し苦戦している子どももいます。保育士に教えてもらったり、出来上がった友だちに手助けしてもらったり、みんなで助け合って、みんな一緒に完成です。とんがった羽を丸く切ったり、くちばしをくねくねにしたり、思い思いの楽しい鶴がたくさんいます。出来た折り鶴は制作の一部で、これから画用紙の上で素敵な作品に仕上がる予定です。

広い保育室で、3 クラス一緒に給食時間です。5 歳児クラスは当番さん 3 人が出て、配膳のお手伝いをしてくれます。真っ白の割烹着と三角巾・マスクをつけて、誇らしげにてきぱきと、保育室内を行き来しています。配膳を持つ子どもたちからは、テーブルごとに楽しそうなおしゃべりが聞こえます。「唐揚げ大好き」「グレープフルーツは少し苦いよ」など、テーブルに並んだ今日の献立への感想もあります。

玄関ホールには給食サンプルケースに並んで、三色食品群の展示ボードがあり、今日の給食に使われた食材をそれぞれに分類して展示しています。鶏肉は“血や肉や骨になるもの”果物は“体の調子を整えるもの”と、一つ一つ展示する係りも給食当番の役目です。年度末には次年度に当番をする 4 歳児クラスに、5 歳児クラスが、この分類を教えて引き継ぎをします。みんなの憧れの「たいようさん」です。



-評価で次のステージへ-
since 2012

合同会社 評価市民・ネクスト

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター153

Tel: 050-3786-7048 Fax: 045-330-6048

URL: <http://www.hyouka-next.jp>